

# 世界遺産登録に向けて

## 鶴子銀山(5) 秀吉と上杉景勝の佐渡平定

天正5(1577)年4月へ一説には元亀4(1573)年3月)に、佐渡で一向一揆が起きました。一揆は、佐渡にいた上杉氏の代官蓼沼右京亮が討ち死にするほど激しいもので、増強された上杉陣営の派兵でやっと平定されました。

一揆の中心は、銀山や砂金山で働く浄土真宗の門徒衆で、北陸の一向一揆に呼応したものとされています。しかし、一旦平定されたものの、佐渡の情勢は不安定のままでした。これは、西三川砂金山を支配する羽茂本間氏と、鶴子銀山を支配する河原田本間氏との争いや、鶴子銀山をめぐる沢根本間氏と河原田本間氏の争いが続いていたことによるものとされています。

一方、この時代は織田信長や、豊臣秀吉による天下統一が進み、「喧嘩停止令」によって、当事者の武力行使による解決は禁止されていました。

上杉氏を継いだ景勝は、天正14(1586)年6月初めて上洛し、秀吉に拜謁した際、紛争の続く佐渡の支配を命じられたとされます。こ

れをうけて、天正17(1589)年

6月、沢根本間氏や新穂銀山を支配していた潟上氏の協力を得て、景勝は佐渡を攻略します。名目は島内の紛争の解決でしたが、佐渡の金銀山を直接支配することが目的でした。

しかし、天正10(1582)年には生野銀山、同12年には石見銀山を手中に納めていた秀吉が、景勝を通じて佐渡の金銀山を支配するためであったと考えられます。



景勝の軍勢が、佐渡上陸直後に  
供応されたという沢根城跡

◆市役所世界遺産推進課

(金井就業改善センター内)

☎63-5136



## 『大野亀の魅力』

佐渡の観光名所として有名な大野亀は、皆さんご存知のトビシマカンゾウの群生地として知られています。また、一枚岩としては日本有数の規模を誇り、その雄大さに人々は心を動かされます。正面からの大野亀は植物の緑と黒い岩肌のコントラストがたいへん見事です。また、北鶴島側の海岸から見る大野亀は、巨大な岩盤が眼前に広がり、迫力があります。

今回は、この海岸から見た大野亀の魅力をご紹介します。まず、海岸を歩いて気付くことは、珍しい岩石がたくさん見られることです。最初に目を引いた石は、温石(カイロやアンカとして利用した石)として有名な蛇紋岩、緑色をして蛇が這ったような模様があることからこの名がつけられました。結晶が繊維状になると石綿になります。次に角閃岩、黒く細長い結晶(角閃石)が縞状に集まった岩石で、光が当たると全体がきらきらと輝くともきれいな石です。そのほか、大野亀の本体を作っている粗粒玄武岩、泥岩が熱の変性を受けて、一見黒曜石のように見える硬質泥岩など、ほかの地域

では目にするこのない石に触れることができます。

そんな貴重な岩石が集まった浜からふと陸側に視線を移すと、一段高いところに丸い石が含まれた層を見ることが出来ます。これが津波堆積物といわれているものです。平均すると千年に一回くらい、巨大な地震が起こり、大津波に襲われるといわれています。その痕跡がこの海岸に残されています。

また、大野亀に向かって足を進めていくと、角閃岩を多く含むレキ岩、大野亀の粗粒玄武岩へと変化していきます。この三種の岩石は、大野亀が形成された歴史を物語っているでしょう。景色だけでなく、地質的な魅力満載の大野亀をぜひ訪れてみてください。



◆市教育委員会社会教育課

ジオパーク推進室(両津支所内)

☎27-4185